

## 第 2 章 . エネルギー消費の現状

### 2 - 1 . 現状 (1999 年度)

我が国は、二度の石油危機を踏まえ、世界に先駆けて産業部門を中心に、エネルギーの利用効率化を進め、既に、世界的にも最高水準の実績を達成しているものの、依然としてエネルギー消費は増加しており、特に民生部門や運輸部門の伸びが大きくなっている。

兵庫県の 1999 年度のエネルギー消費量は、 $199,830 \times 10^9 \text{kcal}$  (2,160.3 万 kl (原油換算)) であり、全国の 5.4% に相当する。また、これを県民の人口で割った県民 1 人当たりの消費量は 3.9kl/人 (原油換算) であり、全国平均 2.9kl/人 (原油換算) を上回る。

部門別では、産業部門の割合が全体の 64.9% (我が国では 49.0%) を占めており、ついで運輸部門が 16.6% となっている。また、燃料種別では、非石油系燃料、石油系燃料の占める割合が大きい。

1990 年度比で見ると、エネルギー消費量全体では 18.5% 増加 (我が国では 15.2% の増加) しており、特に民生部門 (業務系) が 事務所等の延床面積の増加やオフィスの O A 化の進展等 により 46.0% の増加、民生部門 (家庭系) が 世帯数の増加や家電製品の多使用化等 により 34.7% の増加と、民生部門の伸びが顕著となっている。

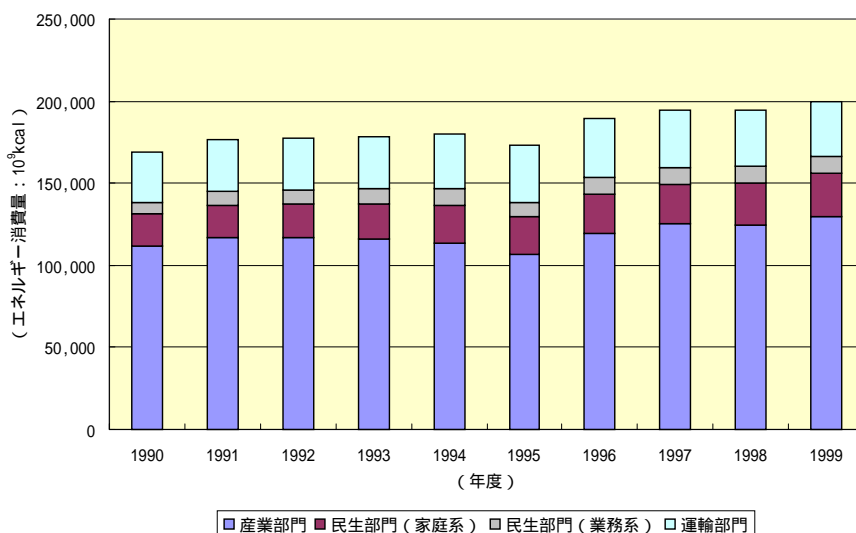


図 . 部門別エネルギー消費量の推移

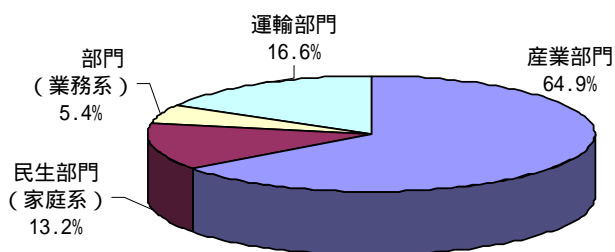


図 . 部門別エネルギー消費量 (1999 年度)

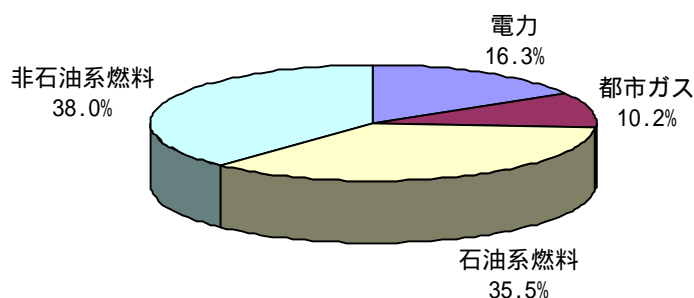


図 . 燃料種別エネルギー消費量 (1999 年度)

## 2 - 2 . 将来 ( 2010 年度 )

2010 年度の兵庫県のエネルギー消費量について、新たな対策を講じないまま推移するとして予測すると、 $206,926 \times 10^9 \text{kcal}$  ( 2,237.0 万 kl ( 原油換算 ) ) となり、1999 年度比で 3.6% の増加、1990 年度比で約 22.7% の増加となる。なかでも民生部門は、家庭系では世帯数の増加や家電製品の普及・多機能化、業務系では事務所等の延床面積の増加や O A 化の進展等を反映して、伸びが大きくなると推測される。

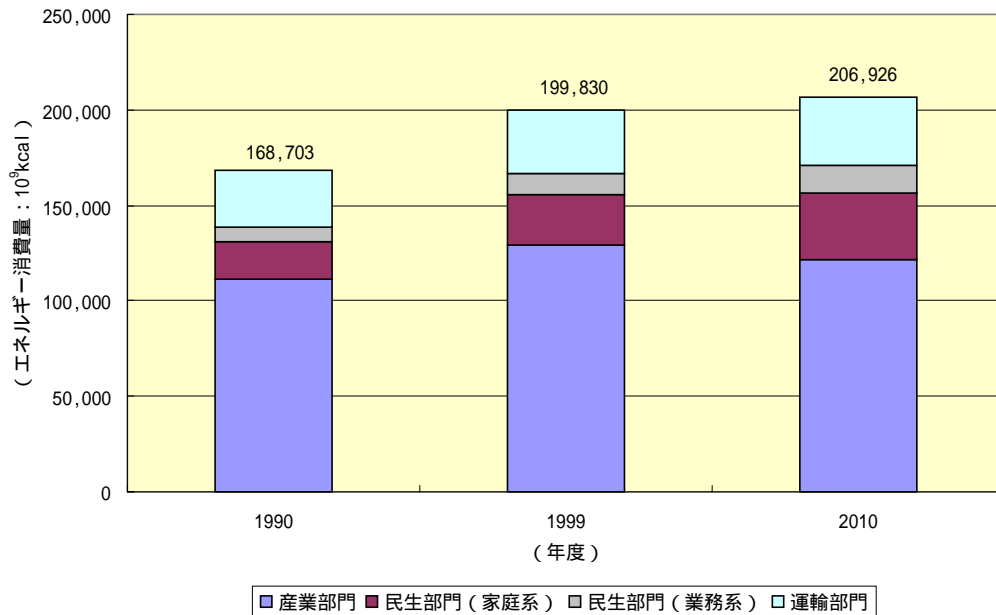


図 . 部門別エネルギー消費量の推移